

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



氏名 (Name) Y.O
所属 (School) 人間社会学研究科
学年 (Grade) 博士後期課程

留学先 (Name of overseas institution)
The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for
Holistic Education (Gyeongin National University of
Education in Anyang, Korea)
留学期間 (study abroad period)
2019年10月24日-10月26日
記入日 (Date) 2019年10月31日

2019年10月24日から26日まで、韓国の Gyeongin National University of Education で行われた The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education に参加してきました。開催国の韓国はじめ、カナダ、アメリカ、日本、香港、タイ、マレーシア、イスラエルなどからの60名あまりの参加者があり、「平和に向けたホリスティック教育」という本大会のテーマのもと、研究や実践に関する様々な発表や意見交換が行われました。学会は24日から26日にかけて、レセプション、基調講演及び3つの分科会に分かれての研究・実践発表という流れで行われましたが、加えて、前日に韓国の小中学校を訪問する機会を作っていただきました。さらに、今回は隣国で行われる学会ということで、日本ホリスティック教育/ケア学会から指導教授の吉田先生はじめ、沢山の研究者が参加したこともあって、日本で学んだ経験をもつ韓国の研究者たちによって日本語でのセッションが特別に企画され、日韓の研究者の間で密の濃い交流が行われました。まず、学会に先立って訪れたアニャン市の小中学校訪問について、次に学会全体と日本語のセッションについて、最後に私たちの共同発表について報告したいと思います。

学校訪問

学会前日、Gyeongin National University of Education の Baek Jun-Hyung 先生、韓国ホリスティック教育協会の理事である Song Ming-Young 先生に企画していただき、アニャン市の小学校2校と中学校を訪問しました。いずれも公立の学校で、授業料は無料、子ども達の発刺とした元気さからも、自主性、関係性、協働を重んじ、居心地の良い環境を作ることに力を入れていることが感じられる学校でした。最初に訪問した Hwarang elementary



school は、日本でも行われてきた学校の森づくりを、都会の真ん中に位置しながら実践してきた小学校で、森づくりの経緯をスライドで見せていただいた後、森のある場所を実際に見学させていただきました。休み時間だった子どもたちが次々と挨拶に来て、森の説明をしてくれたり、日韓の関係についての質問をしてきたり、ものおじせず自分の思いをきちんと表現する姿が印象的でした。次の訪問先である

Cheolsan Elementary School では、まず生徒たちと一緒に、ビビンバと具沢山の味噌汁を中心とした美味しい給食をいただきました。その後、ホールで生徒会の子供たちが英語で学校紹介をしてくれた後、案内役の生徒たちが、やはり英語で準備した資料を基に、その日行われていたバザーや図書室、科学教室、数学の授業などを見せてくれ、別れるときには手づくの名刺を渡してくれました。最後の中学校でも生徒のグループが、レベルの高い英語力を駆使して、学校を案内してくれました。学校のビジョンとして、ホリスティック教育の理念が掲げられていましたが、壁に飾られた多種多様なアート作品、ビオトープやウサギ小屋など生徒が一息つける場の手入れが行き届いていること、好きなときに弾けるように各階の廊下におかれたピアノなどから、それがしっかり根付いている様子が伺えました。

The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education



今年で7回目となる本学会は、北米発のホリスティック教育をアジアの文化圏の中で新しく根付かせようとする意図をもって始まりましたが、私が初めて参加した第4回大会に比べ、参加者は倍増し、新たな世代へと取り組みが広がっている感じが感じられました。加えて、ホリスティック教育の創始者である John・Miller 教授が所属するトロント大学で毎年行われていた学会を引き継ぎ、アメリカの Southern-Oregon University でこれまで二度開催されてきた International Holistic Teaching and Learning conference とのタイアップがより明確に打ち出され、Asia-Pacific Network for Holistic Education として本格的に動き始めた大会となったように思います。会場となった Gyoengin National University of Education は、1946年に設立され、教員養成大学として評判の高い国立大学です。山のふもとにある第2キャンパスでは既に紅葉が始まり、晴れ渡った空のもと、ミラー先生の基調講演「Tao of Teaching and Learning」で学会の幕があがりました。大会中は、学会を牽引してきたメンバーのミーティングに加わる機会やオフィスを訪問する機会があり、その際 SongMing-Young 先生や Miller 先生と博士論文の進捗について話し、執筆中の論文について研究指導を受けると共に、学会での発表についてのコメントをもらうことができ、有意義な時間となりました。

日本語でのセッション

25日午後に行われた日本語セッションでは、6人の韓国の研究者と私たち日本人研究者のグループによる発表が行われました。日韓の政治的な緊張感が高まる中でしたが、韓国側の研究者たちの日本への暖かな関心が感じられたセッションでした。個人的に興味深かったのは、全人教育の概念を、スピリチュアリティの次元を取り入れた「holistic education」、知情意の調和を目指す「whole education」、教科過程の均衡に主眼をおく「all-round education」の3つのカテゴリーに分けて整理された Yong-Jin Hahn 先生の発表で、明確でわかりやすい概念を今後の研究に生かしたいと思いました。セッション全体として印象的だったのは、もっと心を開いて話をしたいという韓国の人々からの積極的なメ



メッセージでした。ともすれば、難しい状況には触れずに済ますことで平和を保とうとしがちな日本人ですが、植民地化や北朝鮮との分断の歴史を現在のこととして生きている韓国の人々の意識はより明瞭で言語化されていると感じました。私たち日本側は事前に、日本におけるホリスティック教育の現状や課題についての発表を準備していましたが、発表前日、吉田先生の発案により、日本の研究者同士で集まり、韓国の人々に何を伝えたいかを再度確認しながら、国と国、人と人の繋がりをより深く考える機会を持ち、この交流も得難い経験となりました。私の担当は、先月6月に行われた第3回大会のシンポジウムや各発表についてでしたが、関係性などをキーワードに一步踏み込んだ見解を付け加えました。こうした時間を踏まえての日本語のセッションであり、また司会の韓国の先生のご尽力もあって、小さくはあるけれども1つの平和を基にした対話の実践の場となったのではないかと思います。

共同発表

最終日は、フィンランド発の「オープン・ダイアログ」と私の研究テーマであるR. シュタイナーの言語観との出会いを通して、自己変容に繋がる対話とはどのようなものかについての共同発表を行いました。前半はそれぞれの理論とそこから見出した対話の定義を提示しました。シュタイナー自身が対話について直接的に語ることはほとんどなかったとはいえ、語りにおける呼吸やリズム、静けさや間、聴くことを重視していたことに注目し、オープン・ダイアログとの接点を考える過程で新たな視点を得ることができました。後半は3つの異なったワークを行いました。詩のリズムに合わせて歩き、出会った人と簡単な自己紹介をするワーク、傾聴のワーク、最後に4人組になってオープン・ダイアログを体験しました。参加者からは、発表の目的やゴールが明確で、理論を踏まえた上でワークがあって相互補完的だった、3つのワークの連続性が見て取れたといった全体的な感想がありました。一方、個々のワークに関して、誰がいつ何をしたらよいかのわかりづらかった、(トピックが難しすぎたり、正しい椅子の配置がわかりにくかったりしたために)話がしにくかった、といった感想があり、私たち発表者の説明が明確でなかったことが大きな反省点となりました。とはいえ、実際にファシリテーションしてみることのできた気づきは大きく、理論的側面を見直すきっかけにもなりました。また、必ずしも参加者全員が英語に堪能であるわけではないことを心配していましたが、むしろ傾聴のモードを高め、お互いにきちんと理解できているかどうかを確認しながら、話を進めるきっかけとなったという声もあり、対話において語学など壁となりうるものがあったとしても、だからこそ一層互いに配慮し合い、より深い理解がうまれる可能性があることも実感することができました。